

インドネシア・イスラーム研究の扉を開ける

小林寧子

特集／途上国研究のための研究ツール—新・旧書誌情報を活用する

インドネシアのイスラーム問題が関心をもたれるようになった現在でも、未だにその手引書と言えるものはない。イスラームがこの地域でどのように発展してきたかを大雑把につかもうにも歴史の概説書さえない。一方、インターネットからの情報は洪水のように溢れている。情報の質を見分ける力量を身につけるには基礎知識を習得するほかはない。ここでは、インドネシア・イスラーム研究をめざす人が手元に置くべき必携書を紹介したい。

①入門書

具体的な工具について述べる前に、インドネシアの宗教全般に関する次の概説書に触れておきたい。Fox, James J., *Indonesian Heritage: Religion and Ritual*, Singapore: Archipelago Press, 1999. イスラームをはじめとする公認宗教のみならず土着信仰までそれぞれの宗教儀礼や生活習慣を、実力ある執筆陣がわかりやすく説明している。豊富な写真からはインドネシア各地のイスラームの地域的色彩が楽しめる。是非目を通しておきたい文献である。

②百科事典

イスラームを学ぶのに障害となるのは、イスラームに独特の用語である。見知らぬ用語に多く遭遇するために、それだけでイスラームは不可解と思われがちである。実際に接してみると、一般のムスリムの言葉とウラマー(イスラームの専門家、知識人)とは確かにイスラームを説明する用語が異なる。アラビア語借用語は発音のみならずアルファベット転写表記も異なる。初歩的なイスラーム用語で躓かないようにするためには、用語解説書が必要である。

幸い日本語では質の高い『岩波イスラーム辞典』(大塚和夫他編、二〇〇二年、岩波書店)と『新イスラーム事典』(日本イスラム協会、二〇〇二年、平凡社)があるのだ、それを参考にしながらイスラーム用語に馴染むことが可能である。しかしながら、他のイスラーム地域で使われる用語が東南アジア(インドネシア)で必ずしも同じ意味で使われるわけではない。イスラーム世界一般で使われる用語と、それがインドネシアで意味変化を起こしていないか、またインドネシア独特のイスラーム用語はない

かなどに留意しながら文献や実地調査にあたる必要がある。

インドネシアのイスラーム関係の用語で最も情報量が多いのはジャカルタの Ichtiar Banu Van Hoese 社から発行されている三種類のイスラーム百科事典である。第一は、『イスラーム百科事典』(*Ensiklopedi Islam*) 改訂版、八巻本)二〇〇五年である。これはイスラーム用語一般の説明もスタンダードであるうえに、インドネシアに特有のイスラーム用語、ならびに人物について詳しい情報をそろえている。次に、『イスラーム世界 テーマ別百科事典』(*Ensiklopedi Tematis Dunia Islam*) 七巻本)二〇〇二年。『百科事典』という名前になってはいるが、概説書である。イスラーム世界全般が対象なので、東南アジアに触れる部分は少ないが、世界の流れの中で東南アジアを位置づけるのに役立つ。特に第五巻は東南アジアだけに絞っており、東南アジア・イスラーム史を様々な角度から見ることに面白さがわかる。カラー挿絵や写真があり、理解の助けとなる。イスラームでは人や動物の細密画は禁じられていないのかという

堅い疑問も忘れさせる。ただ、この二つのシリーズには年号などで細かいミスが散見されるので注意すること。

最後に、イスラーム世界を考えるうえで基本となるイスラーム法に関しては、『イスラーム法辞典』(*Ensiklopedi Hukum Islam*, 六巻本)一九九六年、を参考にすることを勧める。インドネシアのウラマーの学問の水準を示すものであり、イスラーム法に関してはここに説明がなければ、他に見出すのはほぼ不可能と考えるもよい。読み込むと、インドネシアのイスラーム法学で重視されているのが見えてくる。インドネシアで出版されているイスラーム関連の書籍の中でも最も風雪に耐える力を備えている。

インドネシアではこの他にも、Jembatan Merah 社から『インドネシア・イスラーム百科事典』(*Ensiklopedi Islam Indonesia*, 改訂版、三巻本)二〇〇二年、宗教省から『イスラーム百科事典』(*Ensiklopedi Islam*, 三巻本)一九八七年、が出版されているが、情報量・質ともにやや落ちる。ただ、比較してみる価値はある。

インドネシア以外では、オランダのブリル(Bril)社から出版された *Encyclopaedia of Islam* (第二版、一二巻)、二〇〇四年完結、が最も確かな情報を提供している。CD-ROMでの使用を勧める。しかし、全体の出版に約半世紀という長過ぎる時間がかかった弊害もある。Aで始まる Afrah

で引用されている文献は一九五〇年代までであるのに対し、Pで始まる Pesantren は一九九〇年までの文献が引用されるといいう具合である。一九七〇年代以降、インドネシアのイスラームは動きがはやく、また研究もこの二〇年近くの間にかかなりの進展を見た。その分が反映されないのはやはり痛い。ブリル社は二〇〇七年からはさらに第三版を一五年がかりで出版する予定であり、飛躍的に情報が増えることが期待される。また、すでに出版された第三版 Part 1 に掲載された Afrah と第二版の Afrah を比べると、重複しない情報も多く、二つを併用するのとが望ましい。なお、次の辞典はコンパクトで手元におけば便利である。Federspiel, Howard M., *A Dictionary of Indonesian Islam*, Ohio: Ohio University Center for International Studies, 1995.

③書誌

昨今は図書館の文献検索はネットのために飛躍的に容易になったが、これも比較的新しい文献に限られる。古い文献、マニユスクリプトに関する案内ではやはりインドネシア研究の蓄積が厚いオランダの研究者の手になるものが貴重である。

ジャワのイスラーム関連の写本(一六〜一九世紀)に関しては次の書誌がライデン大学他所蔵の「宝本」に導いてくれる。Pigeaud, Theodore G. Th. ed., *Literature of Java: Catalogue Raisonné of Javanese Manuscripts in the Library of the University of*

Leiden and Other Public Collections in the Netherlands, The Hague: Martinus Nijhoff, 1967.

同じくライデンにある王立言語地理民族学研究所(Koninkrijk-Instituut voor Taal-, Land- en Volkenkunde=KITLV)にはプサントレン(寄宿制のイスラーム教育機関)で使用されているキタブ・クニン(主にアラビア語の宗教書、古典文献)九〇〇冊が蔵書されており、そのカタログは次のものである。Bruijssen, Martin van, *Kitab Kuning: Islamic Books in Arabic Script Published in Southeast Asia, Collected in Indonesia, Malaysia and Patani by Martin van Brujssen*, 1989, KITLV (未刊行)。また、この九〇〇冊の概要に関してはその収集者による次の解説を参照。Bruijssen, Martin van, 'Kitab Kuning: Books in Arabic Script Used in the Pesantren Milieu. Comments on a New Collection in the KITLV Library,' *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde*, 146/III, 1990, pp.226-269.

植民地期の文献に関して着実な情報を与えてくれるのは、Poland, B.J. and I. Farjon, *Islam in Indonesia: A Bibliographical Survey 1600-1942 with Post-1945 Addenda*, Dordrecht: Foris Publications Holland, 1983 である。戦前のインドネシア・イスラームに関する論文・書籍タイトルを中心に一九四点が掲載されている。文献リストの前には五八ページにわたって研究史が概観されており、インドネシアのイスラームに関する知識がいかにして積み上げられたかがわかる。巻末

の索引はめざす文献へ導いてくれる指針となり、きわめて有用である。編集者のポラント博士が後進の研究者への便宜を図るために一〇年を費やした労作である。掲載された文献の多くはオランダ語であり、歴史を研究しない者には不要と言われるかも知れない。しかし、歴史をおさえない現代研究は、賞味期限の短い浅薄な研究になりかねないことを肝に銘じておかねばならない。

戦後から一九九〇年代初めまでの文献を知るには次のものがあるが、ジャンル別になつてゐること、また索引がないためにやや不便である。Horvath, Patricia (compiled), *Islam and Muslims in Southeast Asia: A Bibliography of English-Language Publications 1945-1993*. Honolulu: Southeast Asia Paper No.38, Center for Southeast Asian Studies, School of Hawaiian, Asian and Pacific Studies, University of Hawaii, 1993.

最近のトピックを手早く知るには次の文献が有用である。それぞれの資料の「なわり」が紹介してある。Fealy, Greg and Virginia Hooker (compiled and edited), *Voices of Islam in Southeast Asia: A Contemporary Sourcebook*, Singapore: ISEAS, 2006.

④ 雑誌

インドネシアのイスラームに関する専門雑誌は、ジャカルタのシャリフ・ヒダヤトウッラー国立イスラーム大学 (Universitas Islam Negeri Syarif Hidayatullah) が出版してゐる *Studia Islamika* しかない。一九九四

年から発行され、一九九五年から一九九七年までは年に四回発行されたが、それ以降は三回の発行である。論文は英語かアラビア語であり、必ずインドネシア語の要旨がつく。内外の研究者が寄稿するし、書評も掲載されるので、どのような研究者がインドネシア・イスラーム研究に従事しているのかを知る上でも役に立つ。

それ以外は *Islamic Law and Society* (Brill, Leiden) / *Indonesia* (Cornell University, Ithaca) / *Bijdragen tot de Taal, Land- en Volkenkunde* (Leiden) / *Archipel* (Paris) などに時おりインドネシア・イスラーム関係の論文が掲載されるので目を通しておくのがよい。

⑤ インターネットでの文献検索など

多くの図書館がオンライン・システムで情報を公開するようになり、非常に便利になった。インドネシア関係の文献に関してはやはりオランダの KITLV が抜群の蔵書数を誇る。http://bs4.kitlv.pict.nl/8080/

インドネシアの図書館では国立図書館 (Peputakaan Nasional) がオンライン・システムをめぐっているが、アクセスがあまりよくない。http://www.pni.go.id/

文献検索ではないが、報告・論文をダウンロードできるサイトも紹介する。インドネシアのイスラーム動向に関しては次のサイトが年に数回有用なレポートを掲載する。執筆しているのはアメリカ人のイスラーム研究者シドニー・ジョウンズ

(Sidney Jones) である。長年の経歴を梃子に最新の情報を提供している。手続きをすれば報告書はダウンロードできる。http://www.crisisgroup.org/home

個人サイトで論文を掲載している研究者はオランダのマルティン・ファン・ブライネッセンである。こちらも覗いてみることを勧める。http://www.leku.nl/~martin.vandbrunnesser/personalindex-eng.html

⑥ アラビア語借用語の転写

インドネシア語にも多くのアラビア語借用語があるが、何気なく使っている言葉がアラビア語起源であるかどうかを確かめるためには、次のリストが最もよく利用される。Jones, Russel (comp.), *Arabic Loan-Words in Indonesian: A Check-List of Words of Arabic and Persian Origin in Bahasa Indonesia and Traditional Malay, in the Reformed Spelling*, London: SOAS, 1978.

上記の文献などを参考にして語彙を絞り、アラビア語、英語、インドネシア語を並べて示したリストとしては次のものがある。Hejzer, Johannes den (compiled and edited), *Pedoman Transliterasi Bahasa Arab, INS: Jakarta, 1992*. 困ったときにインドネシア語ではアラビア語のローマ字転写法がいくつもあるが、この文献はインドネシアの宗教省に直接確認をしたうえで編集されているので、これを標準とするのが安全である。

(こばやし やすこ) 南山大学外国語学部教授)